

医療経営者のための経営情報誌

# ハートフル・メディカル旬報

岡税務労務会計事務所

TEL 092-851-3689

FAX 092-851-7403

## 医療経営者のための経営学

### 治験収入を支える

1. 診療所の 2004 年度決算について調査したところ、2003 年度に比べ医業収入が増加した診療所は 4 割を超えたが、減少したところも 32.0%と少なくなかった。医業収支については、個人立の場合、38.5%が改善し、悪化したのは 19.2%。一方個人立以外では、「改善した」が 31.8%で、「悪化した」が 38.6%を占めた。
2. 以下に診療所開業医の意見を紹介します。
  - 7 年前に父親の診療所を承継して以来、患者数・医業収入は上昇を続けてきたが、診療報酬改定の影響で患者 1 人当たりの単価は低下している。医師 1 人の診療所としてはこれ以上の増患は困難なので、診療報酬が引き下げられてもやっていけるような経営体制を構築しなければと考えている。(消化器科・46 歳)
  - 医療、介護両方の事業を行っているが、何もしていないと少しずつ収入が減少していく傾向にある。(外科・52 歳)
  - 患者の病院志向が強くなった。また病院からの逆紹介も減った。(内科・47 歳)
  - 患者負担増の影響が薄れてきて、患者数が回復したもよう。(内科・43 歳)
  - 当院は設立 9 年目。患者は微増傾向にある。長期投薬の影響も目立つようになってきてはいるが、レセプト件数は減っていない。外総診療止直後のダメージからは、完全に回復したと考えている。保険外診療である外来での治験収入の大幅な増加があったため、10%以上増加した。保険診療のみでは数%の伸びである。(内科・45 歳)

(参考:「日経ヘルスケア 21」2005 年 6 月号)

## 医療経営者のための営業学

### CROとSMOの役割

1. 治験のルールは、1997 年に厳格化された。厚労省が新 GCP (治験の実施基準) を制定して、国際基準を導入したからだ。その結果、データの科学性、正確性がより厳密に求められるようになった。そのなかで一日でも早く新薬開発を実現したい製薬会社にとって、いまや CRO (コントラクト・リサーチ・オーガニゼーション「医薬品開発業務受託機関」) は欠かせないパートナーとなっている。
2. 一方の SMO (サイト・マネジメント・オーガニゼーション「治験施設管理支援機関」) は医療機関の側をサポートする企業だ。医師と病院のために CRC (治験コーディネーター) を訪問させて、治験が円滑かつ正しく運営されるよう支援するのが SMO の役割なのだ。医師に代わって患者に十分に説明をして、被験者となってもらうための同意取り付けに貢献したり、被験者の来院の日程を調整したり、CRC は医師と被験者とのあいだのパイプ役を果たす。
3. 新しいニーズに迅速に対応するためにも、CRO と SMO の果たす役割は今後ますます増大しそうだ。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2005 年 4 月 30 日・5 月 7 日号)

## 医療業界を取り巻く動向

### 厳しくなる日本の医療機器企業

1. 日本では今年 4 月から医療機器の承認審査体制が強化されたことで、審査期間が短くなってゆく。このため、海外で標準的に使われている製品が、従来のように遅れることなく、日本へ流入すると想定される。また、今年 4 月に改正された薬事法で、医療機器も医薬品と同等の、厳しい製造・販売の管理体制が要求されるようになった。その結果、輸入販売では外資系企業の日本法人が中心になるとみられる。
2. 今後、日本の医療機器企業の中には、生き残りが困難となるケースも出てこよう。産業の成り立ちとしては、外資系企業の日本法人が販売や臨床試験、承認申請を独自でできるまでに成長している。またメーカーでも、価格競争に巻き込まれている企業や外資系企業の攻勢を受けて業績が悪化し、開発力まで低下する企業は、今後の生き残りが厳しくなると思われる。

(参考:「野村週報」2005 年 6 月 13 日号)

## 古典に学ぶ

### 指導者意識を捨ててかかる

「衆に出ずるを以て心となす者は、なんぞ常て衆に出でんや」

(訳) この文章は、指導者のあり方について語ったものである。だから「おれがおれがと指導者面をして国民に臨んだ指導者で、国民から喜んで迎えられた者はいない」といった意味になる。

(参考:守屋洋「老子・荘子」): P H P 研究所